

所蔵作品展 「MOMAT コレクション」

2021年3月23日〔火〕－5月16日〔日〕



① 畠山直哉《「Untitled (tsunami trees)」より2019年10月6日岩手県陸前高田市》(2019年)

✓今期の「MOMATコレクション」は「東北を思う」「春まつり」「あやしい」です。

今期の見どころ

1. 東日本大震災から10年：再び「東北を思う」

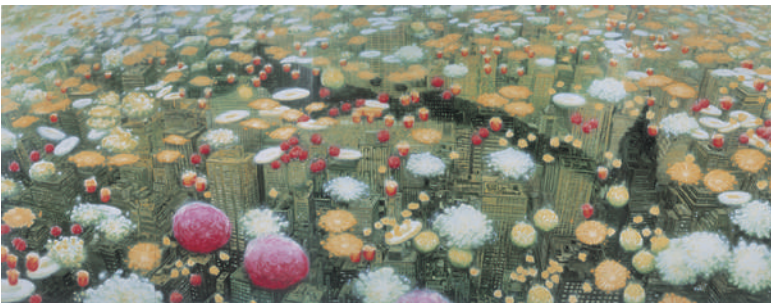
今年の春は東日本大震災（3.11）から10年の節目の年です。当館では、震災直後の2011年5月から2014年度にかけて、3度にわたって「東北を思う」と題した特集を組みました。1回目は東北にゆかりの作家と東北を描いた作品からはじめ、3回目には震災をテーマにした作品等も加えた展示でした。今期は、「東北を思う」の展示を複数の展示室で部分的に再現し、震災後に制作された作品とともに、改めて東日本大震災を振り返ろうと思います。作品には当時の解説キャプションも添える予定です。

～主な展示作品～

4階4室：関東大震災後の復興する都市・東京の姿を描いた版画作品。

3階9室（写真）：1970年代の東北を舞台とした、北井一夫「村へ」、森山大道「遠野物語」、須田一政「風姿花伝」。

2階11・12室：東日本大震災を背景に制作された藤井光、Chim↑Pom、田中功起らの映像作品。畠山直哉の「Untitled (tsunami trees)」シリーズ。N.Y.同時多発テロ（9.11）という大きな災厄を契機に制作された、大岩オスカー《ガーデニング（マンハッタン）》等。



② 大岩オスカー《ガーデニング（マンハッタン）》(2002年)



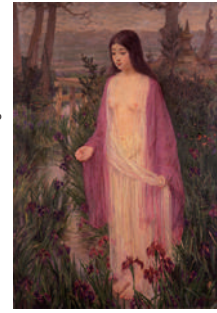
③ 船田玉樹《花の夕》(1938年)

2. 春まつり

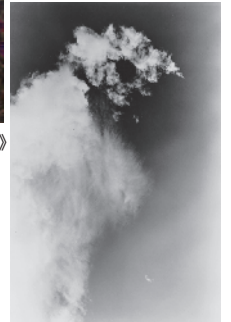
千鳥ヶ淵の桜の開花に合わせて開催される全館イベント「美術館の春まつり」（3月23日（火）～4月11日（日）まで）。花を描いた日本画が3階10室に勢ぞろいします。年に1度、この時期だけの公開となる重要文化財の川合玉堂《行く春》（1916年、屏風六曲一双）、しだれ桜ほか40種類を超える希少な桜を描いた跡見玉枝の《桜花図巻》（1934年、画卷一巻）、船田玉樹《花の夕》（1938年、屏風四曲一隻）、安田靉彦《木花之佐久夜毘売》（1953年、軸、登録美術品）が登場。また、近年人気が高まっている川瀬巴水、土屋光逸らによる「新版画」も展示します。

3. 「あやしい絵」にちなむ部屋

企画展ギャラリーで同時開催の「あやしい絵展」に関連して、4階2室では明治末期～昭和初期に描かれた中沢弘光、前田青邨、中村不折による物語や詩歌を題材とした絵画作品を展示します。4階5室では「あやしい絵展」にシンクロするようなエロティック・グロテスク・退廃的・ミステリアスな世界が描かれた作品を展示。古賀春江、長谷川利行、木村荘八らの作品が登場します。



④ 中沢弘光《かきつばた》
(1918年)



⑤ 川田喜久治《「ラスト・コスモロジー」より怪鳥》
(1987年)

4. 写真展「幻視するレンズ」(コレクションによる小企画)

人の眼とは異なる「機械の眼」であるカメラは、写真家の想像力と結びつくとき、目の前の現実には幻想的な世界への扉を開くことがあります。写真のもう一つの側面を探る特集を、2階ギャラリー4で同時開催します。ウジェーヌ・アジェ、ジョエル＝ピーター・ワイトキン、中山岩太、椎原治、川田喜久治、神谷俊美らの作品をご紹介します。同時開催の「あやしい絵」に合わせて「あやしい写真」の世界をお楽しみ下さい。

✓その他の注目ポイント

ソル・ルウィット《ウォール・ドローイング#769》公開

ミニマル・アートとコンセプチュアル・アートの先駆者ソル・ルウィットの巨大壁画《ウォール・ドローイング#769 黒い壁を覆う幅36インチ(90cm)のグリッド。角や辺から発する円弧、直線、非直線から二種類を体系的に使った組み合わせ全部。》(1994年)が、昨年末、3階「建物を思う部屋」に完成しました。ソル・ルウィットのウォール・ドローイング作品がコレクションとして美術館に収蔵・展示されるのは国内初です。現代アートを体感できる空間、新しい撮影スポットとしてもお楽しみいただけます。




⑥ソル・ルウィット《ウォール・ドローイング#769 黒い壁を覆う幅36インチ(90cm)のグリッド。角や辺から発する円弧、直線、非直線から二種類を体系的に使った組み合わせ全部。》(1994年) Courtesy the Estate of Sol LeWitt, Massimo De Carlo and TARO NASU Copyright the Estate of Sol LeWitt. 撮影：木奥恵三

オンライン・キュレータートーク公開中

おうちでもMOMATを楽しんで頂けるように、公式YouTubeチャンネルで、研究員によるオンライン・キュレータートークを公開しています。今会期に展示中の作品も解説していますので、展示と合わせてご覧下さい。



 **YouTube** <https://www.youtube.com/user/MOMAT60th>

◀こちらからご覧いただけます！

■作品解説をお手持ちのスマホで

所蔵作品展「MOMATコレクション」の作品解説(和英中韓の4ヶ国語)を、お手持ちのスマートフォンにダウンロードしてお楽しみいただけるサービスを提供しています。「CatalogPocket」という無料のアプリをインストールすると、展示中の作品のうち、約100点の作品解説を4ヶ国語でご覧いただけます。解説を自動読み上げ音声で聞くこともできます。

なおこの事業はDNP大日本印刷のご協力によるものです。

ブラウザ版 <https://www.catapoke.com/search/?keyword=MOMAT>



iOS



Android

◀アプリのダウンロードはこちらからどうぞ。

■広報用画像の貸出について

所蔵作品展「MOMATコレクション」に出品中の作品画像は、いずれも無料で貸出しております。貸出しの条件は次のとおりです。

1. 展覧会(所蔵作品展「MOMATコレクション」)の会期中または会期前に発行される記事であること。
2. 掲載時には展覧会名(所蔵作品展「MOMATコレクション」)と会期、掲載作品が展示中である旨を記してください。
3. 原則として、トリミングや文字載せはご遠慮ください。
4. 著作権の保護期間内にある作品については、掲載者側で事前に著作権者の許諾を得てください。ただし、このプレスリリースに掲載されている画像①～⑥については、著作権の保護期間にある作品も許可なしでご利用になれます。
5. 画像の二次使用はお断りしております。
6. 展示期間外の画像利用は、DNPアートコミュニケーションズから有償での貸出しになります。

(<https://images.dnpartcom.jp/>)

開催概要

タイトル(日)	所蔵作品展「MOMATコレクション」
読み方	しょぞうさくひんてん もまっとこれくしょん
(英)	Collection Exhibition MOMAT Collection
会期	2021年3月23日(火) - 2021年5月16日(日)
会場	東京国立近代美術館4F-2F 所蔵品ギャラリー (東京都千代田区北の丸公園3-1)
主催	東京国立近代美術館
開場時間	10:00-17:00、金曜・土曜は20:00まで開館。いずれも入館は閉館の30分前まで
休館日	月曜日(ただし3月29日、5月3日は開館)、5月6日(木)
アクセス	東京メトロ東西線「竹橋駅」(1b出口)徒歩3分
観覧料	<p>一般500(400)円、大学生250(200)円</p> <p>※()内は20名以上の団体料金。いずれも消費税込。 ※金・土曜の17時以降は、割引料金。一般300円、大学生150円。 ※高校生以下および18歳未満、65歳以上、「MOMATパスポート」をお持ちの方、障害者手帳をお持ちの方とその付添者(1名)は無料。入館の際に、学生証、運転免許証等の年齢の分かるもの、障害者手帳等をご提示ください。 ※キャンパスメンバーズ加入校の学生・教職員は学生証または教職員証の提示でご観覧いただけます。 ※「友の会MOMATサポーターズ」、「賛助会MOMATメンバーズ」会員の方は、会員証のご提示でご観覧いただけます。 ※「MOMAT支援サークル」のパートナー企業の皆様は、社員証のご提示でご観覧いただけます。 (同伴者1名迄。シルバー会員は本人のみ)</p>
お問い合わせ	050-5541-8600 (ハローダイヤル)
ホームページ	https://www.momat.go.jp
同時開催	<p>企画展「あやしい絵展」 開場:9:30~ 観覧料:一般1800円、大学生1200円、高校生700円</p> <p>※「あやしい絵展」の観覧料で、入館当日に限り所蔵作品展「MOMATコレクション」(4F-2F)、コレクションによる小企画「幻視するレンズ」(2Fギャラリー4)もご覧いただけます。</p>

※新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡散防止のため、開催内容、開館時間等が変更になる可能性があります。最新情報はホームページにてご確認ください。

【報道関係のお問い合わせ先】

広報担当 小川・堀田 TEL: 03-3214-2565 FAX: 03-3214-2576 Email: pr-f@momat.go.jp